

文部科学省研究開発学校制度を活用した創造的な学校づくり

岩見沢市立緑中学校 学級数12 (校長 小野 篤夫)

□ 実践の概要

本校は、令和7年度から「文部科学省研究開発学校」の指定校として、「自分で学び続ける生徒」の育成を目指し、創意工夫ある教育課程の編成、生み出した時間の利活用、各教科等の指導内容の精選と授業改善を行い、生徒・保護者にとって通う・通わせる価値、学ぶ価値のある、創造的な学校づくりの実践を推進している。

1 実践の目的

「45分授業・午前5時間制」の新日課を設定し、従来の日課にはなかった時間的な余白を生み出すことにより、本校の特色（地域と連携した活動等）を生かした教育活動を充実させ、生徒の学びの質や学校生活の質的向上を図るとともに、授業の質的転換のために必要となる「授業力」と「教師力」の向上を目指す。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① 「45分授業・午前5時間制」の新日課の運用
- ② 生み出した時間（「エデュタイム」）の利活用
- ③ 45分授業の質的充実のための授業改善の取組



【「エデュタイム」に取り組む様子】

(2) 取組の具体

- ① 1単位時間を45分、午前5時間制の新日課を編成・運用することにより、従来の日課では確保することが難しかった午後の時間的な余白を生み出した。各教科の学習内容の定着や学び直し、生徒会活動や振り返り活動など、生徒の主体的な学びや学校生活の充実につながる新たな教育活動を計画的に位置付けた。
- ② 生み出した時間は、特定の教科に固定しない弾力的な学習の時間「エデュタイム」として教育課程上に位置付けた。また、生徒一人一人が自分の興味・関心や学習上の課題に応じて、学習の定着や発展的な学びに取り組むことができるよう、教員が必要に応じて支援を行う体制を整えた。今年度は、その一部について数学科担当教員をコーディネーターとした全校共通の組織的な学び直しの時間として活用した。

曜日	月	火	水	木	金
【午前】授業時間数	5	5	5	5	5
【午後】授業時間数	1	1	なし	1	1
エデュタイム	〔生徒個々の課題等に応じた学習〕	〔数学の学び直し〕	研修、会議日 定時退勤推奨日	〔生徒会活動等〕	〔週の振り返り、翌週の見直し〕

【令和7年度より運用した新日課】

- ③ 新日課の導入に伴い、限られた時間の中で学習効果を高めるため、授業改善に組織的に取り組んだ。北海道教育大学附属旭川中学校の協力のもと、附属中学校への授業参観や教員間の意見交流を実施し、本校教員の授業づくりに対する助言を受けながら、授業構成や学習活動の精選を進めた。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- 生徒対象の意識調査
45分授業の実施により、生徒の学習に向かう集中力の向上、新日課で生み出された時間による家庭学習の時間の確保、自分自身で使える時間が増えたことを実感している生徒が多く見られた。
- 運営指導委員会における検証
ICTの更なる効果的な活用、学習内容によりコミットした学習形態の設定、エデュタイムのより効果的な活用、学校全体としての組織的な授業改善における課題を全職員で確認・共有をした。

(4) 改善後の取組

- ・従来型の授業とICTを効果的に活用したハイブリッド型の授業スタイルの研究を推進する。
- ・学習ログやポートフォリオの利活用、各教科で教科特性に応じた学習形態の工夫を図り授業改善を行う。
- ・生徒の意見や学年の実態に応じて、年度当初の計画を適宜見直すなど、柔軟な取組の推進を図る。

3 実践のポイント

- ・文部科学省研究開発学校制度を活用することにより、本校の抱える学校課題を改善し、生徒・保護者にとって通う・通わせる価値、学ぶ価値のある、創造的な学校づくりを推進すること
- ・生徒の個別最適な学びや協働的な学びを充実させる手立てとなるよう、エデュタイムを推進すること
- ・45分授業の実施のために必要となる授業改善を着実に推進すること

新教科「Globe」の取組

～自国の文化を大切に、異なる文化をもった人々と共に生きる子どもの育成～
東川町立東川小学校 学級数26 (校長 秋保 利弘)

□ 実践の概要

本校は、平成29年度から令和3年度まで文部科学省研究開発学校指定校、令和4年からは教育課程特例校制度を活用して新教科「Globe」を編成し、町内の幼児教育施設及び小・中学校において実施するとともに、関係機関等と連携・協働したカリキュラムの工夫・改善を図りながら取組の充実を図っている。

1 実践の目的

「Globe」の教科目標は次のとおりである。

- (1) 国際社会で主体的に活躍し東川町を担う人材の育成
- (2) 人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の素地の育成

2 実践内容

(1) 実施計画

「Globe」は、①LOCAL、②Global、③Communication の三つの要素に基づいて学習のテーマを設定している。また、時数については教育課程特例校制度により下表のとおり設定した。

【各学年の年間授業時数】

学 年	年間授業時数	減ずる教科・時数
小学校第1学年及び第2学年	35 時間	※学校裁量の時間等により実施
小学校第3学年及び第4学年	70 時間	総合的な学習の時間等・70 時間
小学校第5学年及び第6学年	105 時間	総合的な学習の時間等・105 時間

(2) 取組の具体（一部）

- ・小学校第2学年では、世界と日本の違いに触れることで異文化への関心を高めることができるよう、世界の人々や級友と英語で簡単な挨拶や自己紹介及びクイズ大会を行い、対話を楽しむ活動を実施した。
- ・小学校第5学年では、東川町の農業のよさを理解することができるよう、「Globe」を中心に社会科、総合的な学習の時間、家庭科の学習内容を関連させ、東川町の特産品である米づくり体験や、「全国食ベマルシェでおもてなし」の単元において、世界の農業・料理について地域在住の外国人と交流する活動を実施した。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・単元全体終了後に、学年の教員・Globe 担当教員・ALT が定期的に授業に係る打合せを行い、次年度に向けた改善点を協議することができた。
- ・児童を対象としたアンケートにおいて、「Globe」の学習に対する意欲に係る設問を設定することにより、その結果を学習内容の改善・充実につなげることができた。



【定期的な打合せ】

(4) 改善後の取組

北海道の先住民族であるアイヌの方々との交流や、農園で自ら栽培した米について学ぶ活動を位置付けるなど、地域の理解をさらに深めるカリキュラムの改善を図る。

3 実践のポイント

- ・児童が「Globe の授業が楽しい」「東川町が好き」という思いをもつことができるよう、児童アンケート等を基に学習活動や指導方法を評価し、内容等の改善を図ること
- ・各学校の教員が「Globe」の趣旨等について理解を深め、主体的にカリキュラムを編成・実施することができるよう、町内の教職員を対象とした「Globe 夏季研修会」を開催したこと